

## 「里のほほえみ」の良質安定栽培の確立

### 要約

対照区、疎植区共に目標収量の 300kg/10a 以上収穫することが出来た。子実重および品質は疎植区、対照区とも大きな差は無かった。

### ○ 展示のねらい

大豆新品種「里のほほえみ」の播種密度について検討し、収量及び品質が安定する栽培法を確立する。

- (1) 具体的目標収量 300kg/10a 以上
- (2) 供試面積 50a (供試区 20a 対照区 30a)
- (3) 展示内容及び試験区概要

ア 疎植区 播種密度：11.1 本/m<sup>2</sup> (株間 15cm 畝間 60cm)

播種量：4.3kg/10a

イ 対照区 播種密度：16.7 本/m<sup>2</sup> (株間 10cm 畝間 60cm)

播種量：6.1kg/10a

### ○ 主な成果

	栽植密度 (本/m) <sup>2</sup>	分枝数 (本/株)	最下着莢節位高 (cm)	稔実莢数		子実重 (kg/10a)
				(莢/株)	(莢/m <sup>2</sup> )	
疎植区	9.2	6.5	4.7	53.4	490	344
対照区	13.1	5.2	11.0	36.7	478	342

	百粒重 (g)	粒度分布 (%)				大粒割合 >7.9	蛋白 (%)	外観品質 等級
		>8.5	>7.9	>7.3	<7.3			
疎植区	40.6	82.9	14.5	1.4	1.2	97.4	45.1	1 下
対照区	41.0	83.4	15.4	1.2	0.1	98.7	44.5	1 下

疎植区は対照区に比べて分枝数が多く稔実莢数がやや多かったが、子実重及び百粒重は同程度で、収量は両区とも目標の300kg/10aを上回った。また、大粒の割合、外観品質、及び蛋白含有率も同程度であった。最下着莢節位高は対照区の方が高かった。以上から、栽植密度9～13本/m<sup>2</sup>の範囲では、収量及び品質に差はあまりないと考えられた。

### ○ 今後の方向性

栽植密度は県で基準としている11.1～16.7本/m<sup>2</sup>の範囲で普及する。ただし、播種時期が遅くなる場合は、収量性及び最下着莢高確保の点から、播種量をやや多くし栽植密度を確保する。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315